

江津の万葉 ゆかりの地 MAP

制作発行：江津市観光協会（電話 0855-52-0534）・江津市観光ボランティアガイドの会



18. 榎道駅 (都治駅)
山陰道石見6駅の一つで榎道駅とされているが大化年間から平安初期頃までは松川町上津井にあったと言われている。各駅ごとに5頭の馬が常備されていたとされる。



17. 屋上の山 (標高 246m)
別名 浅利富士、室神山、高仙
「…屋上の山の 雲間より 渡らふ月の 惜しけども…」
(万葉集 巻2 135)



16. 江東駅
山陰道石見6駅の一つで松川町八神にあったと言われる。各駅ごとに5頭の馬が常備されていたとされる。



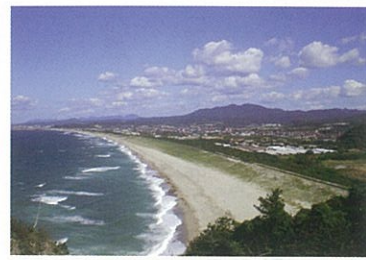
15. 江西駅 (人麻呂渡し)
山陰道石見6駅の一つで金田町にあったと言われる。近くには人麻呂が大河「江の川」を渡った所とされる「人麻呂渡し」の標柱が見える。



14. 藤ヶの山
「…(略) 妹が門見む 藤ヶの山」人麻呂の長歌の一節です。古代人は、山を精霊の宿る神祕の地と見ていました。その神々のこもる不動の山 (高角山) に向かって「藤ヶの山」と叫んだのです。



柿本人麻呂は、西暦700年代の初めに石見の国の初代国司として赴任しました。そして、ここ江津の恵良の里で依羅娘を娶ったのですが間もなく都へ戻る別れの日が来ました。その時詠み交わした歌が『石見相聞歌』と呼ばれる作品群です。万葉集巻2 (131～139) に掲載されています。この相聞歌群には、江津市周辺の地名が6箇所歌枕として詠み込まれています。今も、石見には人麻呂が生きた1,300年前とさほど変わらぬ風景が残っており訪れる人を古代の相聞歌の世界に誘います。



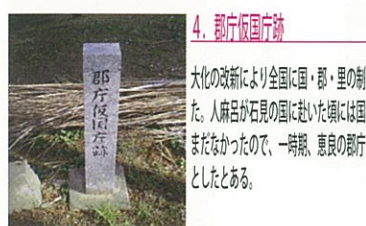
1. 角の浦
波津・江津・嘉久志・和木・角本郷・宇屋川・波子の七浦を言います。大崎鼻灯台より江津の万葉展望



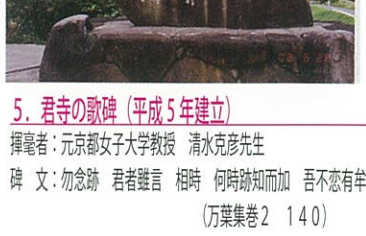
2. 辛の崎の歌碑 (昭和62年建立)
揮毫者：元京都大学名誉教授 澤崎久孝先生
碑文：角崎経 石見之海乃 言佐飲久 辛乃崎有 伊久里曾 深海松生流 荒磯尔曾 玉藻者生流 (万葉集 巻2 135)



3. 二宮交流館の歌碑 (平成10年建立)
揮毫者：元京都女子大学教授 清水克彦先生
「依羅娘生子誕伝承の里」裏面には地元山藤朝之氏揮毫で人麻呂の死を知った依羅娘がその悲しみを詠んだ歌2首刻まれています。



4. 郡庁仮国行跡
大化の改新により全国に国・郡・里の制がおかれた。人麻呂が石見の国に赴いた頃には国庁舎がまだなかったため、一時期、恵良の郡庁を仮国庁としたとある。



5. 君寺の歌碑 (平成5年建立)
揮毫者：元京都女子大学教授 清水克彦先生
碑文：勿念跡 君者誰言 相時 何時跡知而加 吾不恋有牟 (万葉集巻2 140)



6. 高神の丘
応神天皇の時、全国に山守部を配置。石見の国の初代山守部として、角山君内廬が恵良の里に移り住みのしる台が置かれた。恵良の里から高角山が望める。



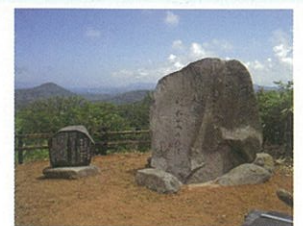
7. 柿本神社の歌碑 (昭和44年建立)
歌碑は、柿本神社境内にあります。
揮毫者：元大阪大学名誉教授 犬養孝先生
碑文：石見乃也 高角山之 木際從 我振袖乎 妹見郎良武香 (万葉集 巻2 132)



8. 真島
真島の岩頭に立つと北に日本海、南に眼前の和木地区の赤瓦の屋根の向こうに高角山 (島の星山) が望めます。「和木海岸の真島の岩山にあがると…(中略) 当時の石見の海の荒涼とした海景は 彷彿とそこうかび出る感がある。」
—犬養孝著「万葉の故」より—



9. 高角山 人丸神社の歌碑 (昭和48年建立)
揮毫者：元九州大学教授 高木市之助 先生
碑文：石見のや 高角山の 木際より 我が振る袖を 妹見つらむか (万葉集 巻2 132)
※ 歌碑に隣接して、人丸神社があります。



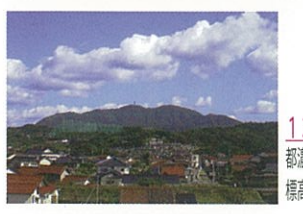
10. 高角山公園 展望台の歌碑 (平成24年建立)
揮毫者：奈良女子大学名誉教授 坂本信幸 先生
碑文：世の葉は み山もさやにさやけども 我は妹思ふ別れ来ぬれば (万葉集 巻2 131)
※ 公園内の高手に、日本海を注ぐ江の川と屋上の山を望む展望台がある。



11. 高角山公園 人麻呂と依羅娘銅像
万葉銅像建立実行委員会が高角山公園に設置。
銅像は平成18年建立。銅像制作は地元彫刻家 田中俊瑞氏。記念碑 (歌碑) は、地元書道家 山藤樹子氏の揮毫で、人麻呂の長歌の一節と依羅娘の歌一首が刻まれています。



12. 万葉の丘
高角山の中腹にある。遠くに辛の崎、角の里、角の浦を望むことができる。



13. 高角山
都津 (角) の嶺にある高い山の事。人麻呂が高角山と詠んだ。標高470m。別名 島の星山、星高山